

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1890100637		
法人名	社会福祉法人 福井ゆうあい会		
事業所名	グループホーム たぶのき		
所在地	福井県福井市大願寺3丁目3-6		
自己評価作成日	平成 30 年 11 月 1 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成 30 年 11 月 21 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方に「普通の暮らし」をしていただくため、生活の中心は「入居者」ということを第一に考えて支援しています。食事は3食とも入居者の方に手伝っていたりしながら手作りしています。食材、献立も入居者の方とチラシを見ながら、近くのスーパーへ買いに出掛けます。入居者の要望、季節に応じてドライブ、花見、喫茶、外食など、施設の中だけで終わらせるだけではなく、戸外に出ることを心掛けています。施設に入居したからできなくなるということがないように、当たり前に行っていたことを施設生活でも継続して行えるよう支援しています。

当事業所は母体法人が運営する特別養護老人ホームと併設し、協力体制にある。外玄関は共有しているが、内玄関は特別養護老人ホームはエレベーター、事業所は木製の引き戸で区別し、独立した生活空間となっている。事業所周辺は交通の便もよく、学校、スーパーマーケット、量販店、飲食店が多いが、静かで落ち着いた地域である。利用者の生活を「事業所が家」という概念で捉え、利用者が住み慣れた家や地域で普通の暮らしを送るためのケアや支援をしている。外出も利用者の行きたい日に行きたい場所に行けるように、また、外食の希望があれば出掛けられる取組みを職員全員で検討している。利用者のこれまでのバックグラウンドを探りながら、ゆっくりと慌てず、尊厳に配慮した支援を心掛けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	人権の尊重と、自由な生活を実現できるように、会議やミーティングを通して話し合い、全職員が共有できるようにしている。	開設当初からの法人の理念を継承し、玄関やリビングに掲示し唱和している。事業所を家という概念で捉え、利用者の普通の暮らしを支援することを会議などで確認している。	法人の理念を基に職員が話し合い、事業所独自のテーマや目標を掲げ、職員一人ひとりが目標に向けて具体的に行動し、理念の実現と振り返りが出来る取組みに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の店に買い物に行ったり、地域の祭りにも積極的に参加をさせていただいている。	日常的に散歩や買物で地域の人と挨拶を交わし町内会に加入し神社の清掃や祭りの出店に協力している。事業所三階の交流ルームで地域の介護事業所と連携し介護講座や勉強会などの縁側ミーティングを開催するなど地域と活発に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の他の事業所や地域包括支援センターと一緒に認知症について地域の方が勉強する機会を設けた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、施設の現状や取り組み、事故、ヒヤリ・ハット報告を随時行っている。参加者の方からいただいた意見も、参考にさせてもらっている。	隔月第3金曜日に開催している。民生委員、自治会長、地域包括支援センター職員、家族が参加する。家族全員にハガキで参加を促しているが、参加できない家族には議事録を送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の際には地域包括支援センターの方に参加して頂いたり、意見を聞かせていただいたりしている。	地域包括支援センターとの連携が主となっている。市の要請を受け小中学生の高齢者施設体験学習を受け入れる等協力体制にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については研修会など、学ぶ機会を設けている。施設の玄関の施錠は防犯上、家と同じように19時30分過ぎから夜間帯のみ施錠している。	19時半以降、夜間のみ施錠している。玄関近くに事務所があり、来訪者や利用者の見守りをしている。職員全員が身体拘束防止マニュアルの整備や内外の研修で拘束の無いケアの理解と実践を徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待については研修会で学ぶ機会を設けている。言葉遣いなど常にミーティングの際に話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は、対象になる方もいないので行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に管理者のほうから説明をしている。その都度家族の方からの相談にも応じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見要望があった際には、ミーティングや運営推進会議で報告、話し合いを行っている。	利用者の要望は日々の会話の中で聞くようになっている。毎月広報誌や手紙で利用者の生活状況を家族に伝え、面会や受診日に直接意見を聞くよう努めている。運営推進会議や家族会議事録を職員全員が共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで遠慮なく意見、提案がしやすいように努めている。ミーティング前には職員一人ひとりに意見、提案を提出してもらいミーティングを開いている。	管理者は職員が意見や提案を言いやすい環境づくりに努めている。ミーティングや個人面談の前に職員の要望意見提案書を確認し把握しており、会議では職員が遠慮なく話せるよう工夫している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課、職員面談で勤務状態の把握や、職員の意見を聴き、改善できる事はするように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内の研修や外部の研修にも機会があれば参加するように促している。又、個別に介護福祉士の資格取得の為に勉強も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の事業所との交流や、他事業所からの見学、研修の受け入れを行っている。外部研修に参加し交流も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する時点で、入居者の状態の確認などを行っているが、入居者の本当の思いや不安な気持ちを十分に把握できていない可能性もあると感じている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に管理者が確認をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に管理者が確認をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に入居者中心と考え、「一緒に生活する」を心掛けている。買い物、料理、掃除などを一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご家族の方に手紙を書き、活動内容や気になったことなどを報告している。又、面会に来られた際にも状態などをお伝えしている。家族の方の思いも聞く時間を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の面会などは自由に行ってもらっている。入居者の希望される場所への外出なども自由に行ってもらっている。	馴染みの関係を継続できるよう支援し、家族、友人、親戚の面会が多い。特定の店での買い物や美容室、知人宅へは家族と共に出掛け、手紙や電話は職員が支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係の把握を常に行っている。少しのもめごとは職員が間に入り話などを聴き、孤立しないように配慮をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人の特養に転居しても定期的に顔を見て安心していただいている。家族の方とも関わりを持ち安心していただけるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	台帳作成やアセスメントを行い、情報の中から取り組みを行うようにしている。又、日常の会話、表情からも気持ちを汲み取るようにしている。	利用者が何でも自己決定できるようゆっくり、慌てないケアを心掛けている。日常の会話や表情から気持ちを汲み取るようにしている。家族にも確認し協力を得ながら意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、ご家族から話を聞き、台帳を作成している。また日常の会話の中からも把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りやミーティング時に他の職員の話聞き現状の把握を皆で行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を入れるように努めている。	介護計画は利用者や家族の意向、担当職員の意見を基に職員全員で検討し、ケアマネジャーが作成している。毎月モニタリングとケア会議を実施し必要に応じてケア内容を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々に記録を毎日つけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟に考え特に予定などなくても、その日の状況で取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ショッピングセンター、飲食店、博物館など地域の社会資源を活用し、楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院はご家族の方をお願いしているが、家族に任せきりにせず本人の状態を伝えたり、医師に文書を渡し本人の状態を伝えていく。又、受診後は家族の方から結果を聴くようにしている。	家族が同行し、希望するかかりつけ医を受診している。医師に情報を提供し、受診結果は家族と共有している。内科の協力医は2週間に1回、精神科の協力医は月1回訪問診療を実施している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護師は配置していない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供書を渡したり、定期的に病院へ行きご本人の様子を確認したりスタッフの方に状態を聴くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約の際に話をする。又、ご家族と面談を実施し認知症の進行状況の説明や重度になったときの対応について話しをしている。	重度化や終末期の支援方法のマニュアルを作成し、重度化した際には、原則として同系法人の特別養護老人ホームや病院に引き継いでいる。入居契約時や利用者の状態の変化の際には、利用者本人や家族と常に説明や話し合いをしながら丁寧に対応している。看取りを行ったことがある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会は行っているが、全職員が実践力を完璧に身に付けているとは言えない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	まだ十分に対応できない。地域の協力体制も不十分。災害時受入れ施設になっているので、相手の施設との挨拶等を行っている。	年2回消防署の立会いのもと火災を想定した避難訓練を実施している。緊急時の避難場所に指定されており避難マニュアル、連絡網を作成し併設の特別養護老人ホームと避難時の協力体制があり3日分の非常食備蓄を管理している。	消火器や避難経路の確保(整理整頓)など設備点検を定期的に行うとともに災害時に地域住民の協力が得られるような事業所の取組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症対応の原則を守り、入居者の方に対しては常に笑顔で、敬語での会話を心掛けている。	人権の尊重を理念とし、利用者の誇りやプライバシーの尊重を徹底している。職員間で意識が共有され、言葉遣いや声掛けなどに配慮した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物や外出のお誘いなども声掛けを行い、行くかどうかを自分で決めていただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室で過ごす方もいれば、リビングで何か作業をされる方もいたり、外出していたりと、一人ひとり思い思いの事をされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	口紅を塗る方、ファンデーションを付ける方、スカーフを巻く方等と、それぞれにおしゃれをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の買い物、食事作り、後片付けを入居者の方と一緒にしている。旬の食材の調理法、取扱いなど教えていただいている。	職員と一緒に毎日スーパーで食材を選び、食事作りをしている。利用者の経験を生かした調理法と味付けとなっている。特別な日は、お寿司を買ったり、おはぎなど作り、食事が楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量、水分量の記録を行い摂取量の把握を行っている。季節や状態に応じて好みの物、飲みやすい物をお出ししている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアを個別に行ってもらっているが徹底はされてない。介助が必要な方は介助させてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間は特に決まっておらず、一人ひとりの排泄のパターンに合わせた支援、訴えに合わせた支援を行っている。	利用者の多くがリハビリパンツで布パンツも使用している。一人ひとりの自立度により必要に応じて排泄の支援をしている。排泄時の汚れや失敗など他の利用者に気づかれないよう、さりげなく支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に果物を提供したり、ヨーグルトや牛乳、オリーブオイルなどを取り入れる、腹部マッサージを行うなど便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日などは決めておらず、毎日お風呂を沸かし、なるべく希望に添えるように配慮をしている。	毎日午後から希望に応じて入浴できる。浴室にリフトの設備があり、脱衣室に身体を支える所を増やすなど安心して入浴できる。入浴は無理強いせず、タイミングを見て提案するなど対応を工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝る時間は、バラバラでテレビを観たり、居室で過ごしたりと自由に過ごしてもらうようにしている。夜間は2時間おきに巡室を行い室温などの管理も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬をもらってきた際には薬剤情報をファイルに閉じ、全職員が目を通すようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり好きな事をしてもらったりしているが、まだ入居者の方のやりたい事、好きな事があると思う。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の買い物他に天気が良ければ散歩や、ドライブ、外出などを行っている。	散歩や食材の買い出しなど毎日外出の機会がある。利用者の友人や親戚、家族の来訪も多く、一緒に外食やショッピングを楽しんでいる。職員も利用者の突発的な外出希望を聞いて外出することが多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設の方でお金を預かり買い物や外出の際には使えるようになっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方は自由に電話をかけている。手紙を書いている方もいるが、施設の電話を使いたい方は、職員に声を掛ければ自由に使用できる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の「家」として考えた造りになっているが、緑が少なかったり、落ち着ける空間が少ないなど、設えがまだまだ足りない。	廊下、居間など飾りつけや写真などの掲示物は無いが、玄関のさりげない季節の飾りや調理のにおい、ベランダの洗濯物干し、芋の天日干しなど隔々に生活感が溢れる空間で、自宅の延長として暮らしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングなどの共用空間で一人で寛ぐような場所はない。一人でゆっくりとしたい時などは、居室や談話スペースでゆっくり過ごしたり、気の合う方を招いて過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	筆筒などはすべて持ち込んでいただくようにしている。テレビ、冷蔵庫、家具など一人ひとりの生活に合わせ持ち込んでいる。	各居室はテレビや冷蔵庫、使い慣れた家具などを持ち込んだり、布団や枕も好みのカバーを掛けたり、カーテンも防災であれば自由に換えることができるなど、一人ひとりが居心地よく過ごせる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家と同じようにリビングと廊下を扉で分けている。入居者の方も居室で過ごしたい時と、リビングに出てきて過ごしたい時とをしっかりとご自分の意思を持って生活している。		